

株式会社朝日ラバー

# 環境・社会活動報告

2018年度

## トップコミットメント

成長の源泉であるコア技術に一層の磨きをかけ  
強い意思で将来に幸せをつないでいきます



### 環境への取り組み



- 環境方針 >
- 事業活動における目標と実績 >
- 事業活動における資源・エネルギーの流れ >
- 環境パフォーマンスデータ／活動状況 >

### 社会への取り組み



- お客様視点のものづくりの追求 >
- 働きやすい職場づくり >
- 社会とのコミュニケーション >

## トップコミットメント

日頃格別なる御引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

当社の経営基本方針は、多くのお客様を始めとして広く社会全体に奉仕、貢献すること。そして、全社一丸となって取り組む真摯な行動が社会全体から存在理由を見出され、「朝日ラバーに頼めば安心して任せられる」という信頼感、そして「朝日ラバーに頼めば何とかしてくれる」という期待感に繋がるものと考えております。当社が展開する事業領域は車載・照明、医療・ライフサイエンス、その他です。どの事業も将来を支える重要な柱と位置づけております。今後も揺れ動く社会情勢の中で「歩むべき方向性」を見極める感度を高めながら、それぞれの社会活動を通じて当社の魅力を継続的に磨き続けることを努力してまいります。

第49期は「お客様にとって御役に立つ腕前を磨き鍛えて質を高める」を経営方針に掲げております。「お客様のための行動」が出来る製品・サービスとは何であるか、今の基準では良い物であっても、将来に「夢や希望や感動を与える」ことができるものなのか、現場密着で答えを導き出して行動へと移すことにあります。その答えは一足飛びに高まるものではありません。あるべき姿は前を向いて走り続ける中で答えとして見つかるものです。私達はお客様に感動を与えるプロフェッショナルであり続けたい。当社は全社員がその意思を有しながら継続してやり抜こうとする人財の集まりです。自らの成長につながる新しい価値を求め続けて着実に前進するための相互啓発を実現し、一段高いものづくりを創造しながら高品質で環境にやさしい製品が提供できるよう邁進してまいります。

今後も「日々新たな」製品や価値を「楽しんで」創造していきける環境を整え、独自製品・開発製品を社会にお届けできるよう全社一丸となって真摯に努力し続けてまいりますので、より一層の御支援のほどよろしくお願いたします。

渡邊 陽一郎

## 環境方針

### 環境基本方針

当社は環境問題が人類共通の重要課題であることを認識し、「環境にやさしいものづくり」をスローガンとして、地球環境の保全と社会への貢献を目指して活動します。

### 環境方針

- 1 関連する法令・法規・条例および社会や顧客からの要求事項を遵守する。
- 2 有機溶剤等の化学物質による環境汚染防止を図り、適正な管理に努める。
- 3 地球環境温暖化防止のため、電力・石油の節減と排出物の削減に努める。
- 4 環境に配慮した有益な新技術や新製品の開発に努める。
- 5 環境方針のもと事業活動や製品が環境に与える影響を考慮した目的・目標・計画を定め、統合マネジメントシステムの運用により、継続的な改善を図る。

## 事業活動における目標と実績

### ■2017年度（第48期）

方針		目標	実績
環境関連法規制への取り組み	事業活動に適用される法規制を順守する	水質汚濁防止法、廃棄物処理法、土壌汚染対策法、PRTR法、消防法、労働安全衛生法、省エネ法などの順守	工場排水や地下水の月次自主監視、廃棄物処理場の現地確認、消防、電気保安、浄化槽他の法定設備点検、各種届出等を行い、法令順守に取り組みました。
	事業活動に適用される有害物質規制を順守する	・RoHS、ELV、REACHなどの規制、指令の遵守 ・得意先から要求される禁止物質、削減対象、監視物質への対応	改正RoHS指令の検討対象物質でゴムの添加剤に使用されるフタル酸エステル類（DEHP）と得意先要求のPVCについて代替配合の切替え活動を継続しました。
CO <sub>2</sub> 削減の取り組み	廃棄物削減	・内作製品売上金額に対するゴム屑重量を前年度比1%削減する	製品歩留り向上、投入材料削減活動に加え、製品構成や受注増の影響もあり、前年度比5.6%減少しました。
	エネルギー削減	・内作製品売上金額に対する原油換算使用エネルギーを前年度比3%削減する	LED照明、プレスジャケット他の投資と設備の運用改善、受注の増加により前年比4.8%減少しました。

### ■2018年度（第49期）

方針		目標
環境関連法規制への取り組み	事業活動に適用される法規制を順守する	水質汚濁防止法、廃棄物処理法、土壌汚染対策法、PRTR法、消防法、労働安全衛生法、省エネ法等の順守
	事業活動に適用される有害物質規制を順守する	・RoHS、ELV、REACH等の規制、指令の順守 ・得意先から要求される禁止物質、削減対象、監視物質への対応
CO <sub>2</sub> 削減の取り組み	廃棄物削減	・内作製品売上金額に対するゴム屑重量を前年度比1%削減する。
	エネルギー削減	・内作製品売上金額に対する原油換算使用エネルギーを前年度比2%削減する。

## 事業活動における資源・エネルギーの流れ



省エネルギー

■ 電力使用量

2017年度は、2016年11月、白河工場に設置した自家消費用の19.5kWの太陽光発電設備が年間を通して稼働しました。白河工場が消費する電力の0.7%分ですが、CO<sub>2</sub>の削減に寄与しました。1月には福島工場にも49.8kWの太陽光発電設備の設置が完了し、2018年度、本格的に発電する予定です。省エネ活動としては、福島工場の電熱プレスにオリジナルの保温ジャケットを装着し、放熱によるロス削減するとともに冷房の負荷を低減、老朽化した蛍光灯、駐車場の外灯をLED照明化しました。また、複数台のコンプレッサーの運転状態を調査した結果、ほとんどの時間が待機状態であるコンプレッサーを見出し、運転の停止を行いました。2016年2月に竣工した白河第二工場の本格稼働が年度の後半からになったこともあり、年度前半は準備運転のための電力消費が発生しました。

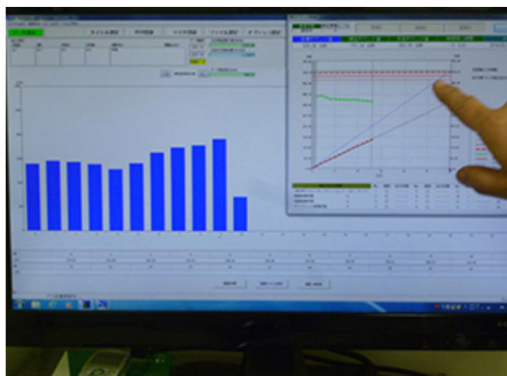
2017年度はこれらの活動に加え、受注が前年比16.6%増加した結果、電力使用量は前年比11.0%の増加になりました。



福島工場の太陽光発電パネル



福島工場のプレス保温ジャケット



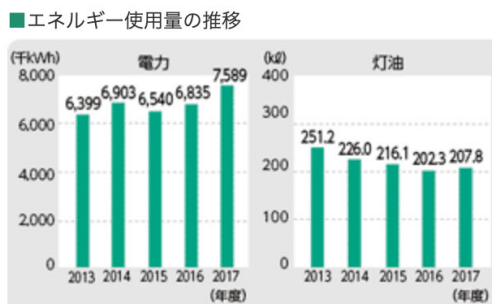
第二福島工場の電力監視モニター

■ 灯油消費量

2017年度も品質改善活動を継続し、医療用製品の品質不良による再生産の減少に取り組みました。また、受注状況の変化に合わせて、老朽化したボイラーの運転頻度を下げ、効率の高いボイラーを中心に稼働させ、使用量削減に取り組みました。しかし、灯油エネルギーを使用する製品の受注が増加したこともあり、灯油使用量は前年比2.7%増加しました。



冷却ポンプの省エネ効果を狙う冷水タンク



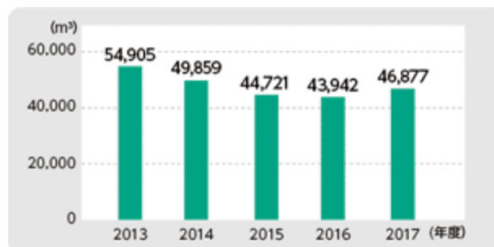
## 水使用量

水の使用量削減も灯油同様、医療用製品の品質改善活動を継続しました。週単位での水使用量のチェックを行うことで水道配管の劣化や冬期の凍結による漏水の早期発見、処置を行う活動を継続し、水のロス防止活動を行いました。しかし、灯油同様、受注状況の変化の影響を受け、水の使用量は前年比6.7%増加しました。



医療用の新製品用設備

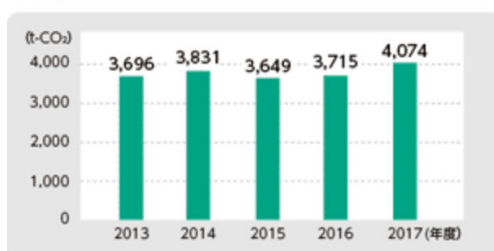
### ■水使用量の推移



## CO<sub>2</sub>排出量の低減

2017年度は、前年度に設置した太陽光発電の自家消費により、7.4tのCO<sub>2</sub>を削減しました。また、福島工場のLED照明化、プレスジャケットの設置、コンプレッサーの運転台数削減などの省電力策を行いました。医療用製品の受注構成の変化で灯油使用量が前年比2.7%増加、全社的な受注増により、電力が11.0%増加し、CO<sub>2</sub>は全体として前年比9.7%増加しました。

### ■CO<sub>2</sub>排出量の推移



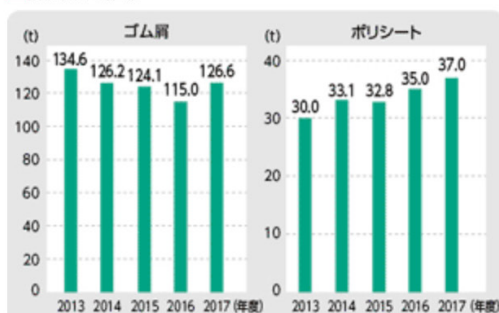
## 廃棄物の削減

2017年度も品質改善と投入材料の少量化によるゴム系廃棄物削減活動を継続しましたが、スポーツや医療ゴム製品の受注増により、これらの原料となるゴムパリや副資材のポリシート、原料容器のダンボール、紙類、木製パレットなどが増加しました。これらの結果、廃棄物全体で前期比9.1%の増加となりました。

### ■廃棄物総排出量と前年度比の推移

年度	廃棄物 (t)	前年度比 (%)
2013	292.7	115.9
2014	310.0	105.9
2015	290.7	93.8
2016	292.2	100.5
2017	318.8	109.1

### ■排出量の推移

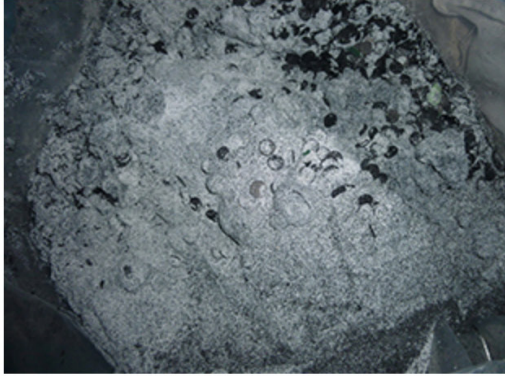


### ■廃棄物の種類

種類	排出量 (t)
ゴム屑	126.6
シリコンゴム	38.5
ポリシート、プラスチック	73.1
汚泥	20.5
廃紙類	26.8
可燃ごみ	17.9
木製パレット	10.4
その他	4.9
合計	318.8

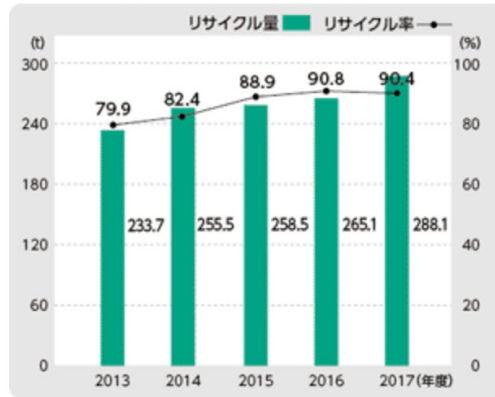
## リサイクルの推進

2016年度、全量を埋立処理していた廃プラストのうち、バリ取り用途のものを分別することで焼却処理が可能になり、焼却処理後の焼却灰を路盤材にリサイクルするルートを見つけました。しかし、2017年度は容器の確保などの運用環境の整備が遅れたため、廃棄物の分別収集までとなりました。2018年度は、少量ですが、廃プラストの一部があらたなりサイクル品に加わります。廃棄物の増加に伴い、リサイクル量は前年比8.7%増加しましたが、リサイクル品目に変化がなかったこともあり、リサイクル率は90.4%で前年比0.4%減少とほぼ横ばいの結果となりました。



バリ取り後の廃プラスト

■ リサイクル量およびリサイクル率の推移



## 化学物質の管理

RoHS6物質が工程内で使用されないように原材料や混練加工済み材料を受入段階で検査するとともに、出荷する製品の確認を行うことで化学物質に対する品質保証を継続しています。

ゴムの添加剤に使用しているフタル酸エステル類 (DEHP、BBP、DBP) が検討対象物質になったことから、これまでPVCとともに進めてきた配合薬品の代替活動が一層重要なものになりました。

工程内で使用しているPRTR法の対象となる化学物質には数種類の有機溶剤があります。

環境や安全に対するルールに従って使用するとともにPRTR法で指定される移動量の届出を行っています。

## トリクロロエチレン浄化活動

当社の主力商品だったASA COLOR ランプキャップ中に含まれる不純物を取り除くため、当社では過去にトリクロロエチレンを使用していました。このトリクロロエチレンが地下に浸透していることがわかり、1996年から土壤ガス吸引浄化装置による浄化、2004年から地下水揚水浄化装置による浄化を行ってきました。

2012年度からは、微生物分解による浄化の可能性についての調査を開始しました。2018年度は2017年度に確認された微生物分解による効果が実際の汚染場所でも同様に得られるかを確認するための薬剤投入を行いました。効果が確認されるまではもう少し時間がかかると考えられますが、2018年度は、この効果を見極めるとともに、浄化効果が確認された場合には、実際の汚染箇所のうち、特に高濃度のエリアに対しての薬剤投入を計画します。

微生物分解の効果を確認しながら、薬剤の追加投入やさらにその周囲にあらたな薬剤を投入し、汚染エリアの解消に向けた取り組みを継続していきます。



土壤浄化高濃度箇所の薬剤投入井戸設置

## お客様の立場に立った品質を大切にしています

### (1)朝日ラバーの品質方針

朝日ラバーの品質方針で大事なことは、「お客様目線の品質」を大切にすることです。得意先クレーム“ゼロ”や法令遵守に取り組むことは当然ながら、お客様のニーズを的確に把握した製品を開発し、資源と時間の無駄を省いた生産活動に取り組んでいます。私たちは常にお客様の視点や立場に立った品質づくりを目指しています。

### (2)品質保証と管理システム

昨年度までの重要な取り組みとして、ISO9001やISO14001の改訂を機に事業プロセスの見直しを行い、事業プロセスと最新の国際基準を統合・一本化させ、統合マネジメントシステムとして構築しました。今後も着実にPDCAを回して継続的改善に取り組んでいきます。品質管理の主な取り組みは工程品質保証活動です。次工程に不良を流さないようにするため、品質実績を徹底解析し、原因を究明し、恒久的な対策を計画していきます。また品質会議や設計DRで横断的な課題や対策の進捗状況などのレビューも実施しています。不良発生の未然防止策として重要なプロセスであり、その力量を高めていきます。

### (3)品質は朝日ラバーの「土台」

土台を構成するのは人材に他なりません。問題の発見力と解決能力を磨くべく、さらなる管理技術と、ゴムの能力を最大限に発揮するための固有技術を身に付け、人として常に学ぶ姿勢を持ち、絶えず良質な品質をお客様にご提供し続けていきます。

## 環境にやさしいものづくり

### (1)朝日ラバーの環境方針

私たちは環境問題が人類共通の重要課題であると認識し、「環境にやさしいものづくり」をスローガンとして掲げ、関連法や省エネ法の遵守を行いながら、生産性向上および、生産過程での供給原料の量に対する製品量の比率（歩留り）を高めることで、資源使用量を低減する努力を日々続けています。これからも事業の成長を通じて環境保全と社会への貢献を高めていきます。

### (2)環境活動の様子

昨年度も、法規制の遵守、有害物質規制の遵守、廃棄物の削減やエネルギーの削減などを方針に掲げ、環境考慮のものづくりを推進してきました。具体的には、福島工場にも自家消費用の太陽光発電を設置、白河・福島工場内照明のLED化を促進するなど、CO<sub>2</sub>の削減効果を高めました。また電熱プレスには、新開発のオリジナル保温ジャケット設置も広がり、更に放熱ロス削減とともに冷房負荷を低減しました。このように環境・省エネ委員会を中心とした草の根活動は、全社の環境意識向上へとつながっております。東日本大震災を経験した福島県にある企業として、これからも環境にやさしいものづくりを目指していきます。



代表取締役社長  
渡邊 陽一郎



## 働きやすい職場づくり

## 人材マネジメント

### 朝日ラバーが目指す人材像

1. 私たちは、一人ひとりが自立心を持って目標に挑戦します。
2. 私たちは、個性を尊重しつつ人間性の向上を育み、仕事を通じて自己実現できる環境づくりを目指します。
3. 私たちは、公平に機会を与え、公正かつ具体的に評価し処遇を決めます。

当社の人事基本戦略として、従業員との対話を大切にし、安心・健康でやりがいのある働きやすい職場づくりにつとめます。従業員が公平に評価され、働きがいやモラルの向上につながるよう、資格等級制度、評価制度、給与制度を見直し、目標を必ず達成できる企業体質の構築を目指します。育成では、従業員の保有能力を把握した上でのキャリアアッププランの策定や管理職のスキルアップ制度の導入を進めます。また、自己啓発の促進につとめ、通信教育などは修了を条件に費用はすべて会社負担として自主的な知識の習得を支援しています。

## ■ 両立支援制度の充実

組織の生産性と活力を高めていくためにも、男女ともに柔軟な働き方と多様なライフスタイルを選択できる諸制度の充実を図っています。特に育児、母性保護、介護に関する制度の見直しに力を入れています。2011年11月には次世代認定マーク「くるみん」を取得し、従業員の子育て支援を積極的に推進している企業を目指しています。制度の整備にとどまらず、活用を促進するために制度の周知徹底、ニーズ調査の実施、施策検討チームによる検討などに取り組んでいます。

## ■ 主な両立支援制度一覧

出産・育児	
育児休業	最長、子が1歳6ヶ月に達するまでの期間は育児休業の取得が可能
子の看護休暇	子が小学校就学の始期に達するまでの期間、子が1人の場合は1年につき5日間、2人以上の場合は1年につき10日を限度として看護休暇の取得が可能。また、限度日数の範囲内で半日単位での取得も可能
介護	
介護休業	要介護状態にある対象家族1人につき、常時介護を必要とする状態ごとに通算93日間の介護休業の取得が可能
介護休暇	要介護状態にある対象家族1人につき、常時介護を必要とする場合、当該家族が1人の場合は1年につき5日、2人以上の場合は1年につき10日を限度として介護休暇の取得が可能
柔軟な労働時間	
所定時間外労働免除・制限	子が小学校就学始期に達するまでの期間、また家族の介護を行う場合、深夜残業の禁止とともに、所定時間外労働の免除が可能
短時間勤務	子が小学校就学始期に達するまでの期間、また家族の介護を行う場合、2時間以内の労働時間短縮が可能
ノー残業デー	第2、4水曜日はノー残業デー（間接部門のみ）
半日単位有給休暇付与	1年につき5日分（半日単位で10回分）の半日単位の有給休暇が取得可能



## ■ 両立支援制度実績(国内事業所および関係会社)

	2015年度	2016年度	2017年度
産休取得者数	7	8	5
育児休業取得者数	10	11	5
育児休業取得者復帰率	100%	100%	100%
育児短時間勤務利用者数	12	13	12
子の看護休暇取得者数・総日数	37(153日)	25(117.5日)	30(150日)
介護関連諸制度利用者数・総日数	2(5日)	9(22.5日)	8(19日)

## ■ 有休休暇取得者数

	2015年度	2016年度	2017年度
有給休暇 平均取得日数(日)	9.4	11.1	11.2
半日有休 取得者数	256	230	247

## ■ 新規採用入社3年未満退職率

	2015年度	2016年度	2017年度
新規採用入社3年未満退職率	3.8%	3.6%	0.0%
採用者数	16	7	3
退職者数	1	1	0

## 職場環境の安全

1件の重症事故の背景には29件の軽傷の事故と300件の傷害にいたらないヒヤリハットが存在するというハイインリッヒの法則があります。当社では各工場でヒヤリハット情報を集め、改善策を実施しています。2017年度には、「向こう側が見えないドアが急に開いてぶつかりそうになった」というヒヤリハットに対し、ドアの開放警報装置を導入し対策しました。両側のドアに人感センサーがあり、片側から人が近付くとドアの反対側のLEDライトが点滅し、ドアが開くかもしれないという光の警報が危険を知らせてくれます。これまでもドアに張り紙をして注意喚起をしていましたが、より一層、危険を感じやすくなりました。

これからも身近に潜んでいる危険を一つずつ改善し、重大事故の発生予防に取り組んでいきます。



ドア開放警報装置

工場のなかには事故に発展しうるさまざまな危険が存在します。当社では、毎月工場ごとに安全衛生委員会を開催し、安全の基本となる2S（整理・整頓）を中心とした工場内パトロールを継続しています。

また当社では、従業員の声を集め、働く環境を整備する仕組みとして女性の視点による職場環境の課題を話し合う場を設けています。

毎月、全従業員を対象に開催する月例報告会では、毎回、いろいろなテーマの研修を行っています。身の回りの安全管理の知識や車で通勤する従業員が多い工場では、交通安全のビデオを見るなど、安全に関するテーマを適時取り上げ、安全意識を高める活動を行っています。



安全パトロール

## 職場環境の安全

2017年度は前年度から始まったストレスチェックを中心として、こころと身体の健康増進に力を入れて活動を行いました。

産業医や外部の専門機関と連携し、従業員のこころの問題に対応する従業員支援プログラム（EAP）を利用しやすくなり、社内研修を行うなどして、メンタルヘルスの体制づくりを進めました。

また、安全衛生委員会による安全パトロールと指摘に基づく改善活動、緊急時の避難・消火訓練、災害発生時のインターネットを使った安否情報連絡訓練の他、外部講師を招いての健康セミナー、防塵、防毒マスクの装着やAEDの使用講習も行いました。

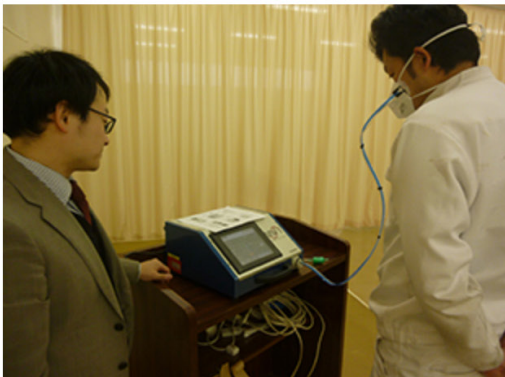
福島工場近郊の企業様が開催する設備への巻き込まれや挟まれ事故の危険を体験できる安全道場に工場の全社員を参加させ、安全意識の向上を図りました。その他、社内にインストラクターを招いてのストレッチやヨガの指導、チャレンジウォーキング、スキーツアーなどの健康イベントの開催、壁新聞“ヘルスニュース”による健康意識高揚活動を行いました。



コミュニケーションスキル研修（福島工場）



消防訓練の様子（第二福島工場）



防塵防毒マスク装着講習会（福島工場）



AED講習会（白河工場）



ストレッチ運動（福島工場）

このほか従業員の福利厚生充実をめざし、納涼祭やファミリーデー、忘年会などの社内行事の他、ベネフィットステーションへの加入、セルフショップやパンの日（社内でのパン販売）の開設など、外部の方々のご協力をいただいている活動も行いました。



ファミリーデー（第二福島工場）



セルフショップ（白河工場）

### 従業員の状況

#### ■従業員数（2018年3月31日現在）（単位：名）

	正社員	準社員	嘱託	パート	合計
本社	30(5)	0(0)	2(0)	1(1)	33(6)
大阪営業所	7(1)	0(0)	0(0)	0(0)	7(1)
名古屋営業所	3(0)	0(0)	0(0)	0(0)	3(0)
福島工場	71(22)	3(1)	0(0)	0(0)	74(23)
第二福島工場	59(22)	3(1)	0(0)	1(1)	63(24)
白河工場	101(26)	1(1)	0(0)	8(8)	110(35)
白河第二工場	10(1)	0(0)	0(0)	1(1)	11(2)
<b>(株)朝日ラバー合計</b>	<b>281(77)</b>	<b>7(3)</b>	<b>2(0)</b>	<b>11(11)</b>	<b>301(91)</b>
朝日FR研究所	14(2)	0(0)	0(0)	0(0)	14(2)
ARI INTERNATIONAL Corp.	2(0)	0(0)	0(0)	2(2)	4(2)
東莞朝日精密橡膠制品有限公司	188(116)	0(0)	0(0)	0(0)	188(116)
朝日科技(上海)有限公司	3(1)	0(0)	0(0)	0(0)	3(1)
<b>総合計</b>	<b>488(196)</b>	<b>7(3)</b>	<b>2(0)</b>	<b>13(13)</b>	<b>510(212)</b>

※ ()内は女性人数

#### ■年代別従業員数（2018年3月31日現在）（単位：名）

	男性	女性
20代以下	50	17
30代	66	21
40代	54	26
50代	29	12
60代以上	5	1

#### ■平均年齢・平均勤続年数（2018年3月31日現在）

	本社	大阪営業所	名古屋営業所	福島工場	第二福島工場	白河工場	(株)朝日ラバー合計
平均年齢(歳)	43.9(36.9)	37.1(44.6)	38.8(0)	40.0(39.2)	39.5(37.4)	37.3(35.4)	38.8(39.4)
平均勤続年数(年)	15.9(10)	7.9(4.3)	10.3(0)	15.6(16.7)	12.5(15.9)	13.6(11.7)	14.2(15.0)

※ ()内は女性

## 社会とのコミュニケーション

### 産業現場実習生の受け入れ

2017年6月に白河実業高校から6名、8月に福島県立テクノアカデミー校から2名、10月には学法石川高校からジュニアインターンシップ生1名の実習生を受け入れました。毎年、各学校から産業実習生を受け入れています。

### 小田川小学校の皆様の工場見学

2017年11月、白河工場近隣の小学5年生、児童11名が社会科授業の一環として白河工場を訪れました。当社製品紹介のほかに、実際にどのようにしてゴム製品が作られるのか、クイズや工作体験で紹介しました。初めてゴムに触れた児童はカラフルな色や材料の感触に歓喜し、世界にひとつの作品を見学の記念品として持ち帰りました。



### JR東北本線泉崎駅の清掃

福島工場、第二福島工場の最寄駅であるJR東北本線泉崎駅で、毎週火曜日の就業時間前に4～5名の当番制で清掃活動を行っています。活動を開始して2018年で23年目になります。



### 朝日ラバー杯卓球大会と中学生卓球大会を開催

2017年8月に第23回朝日ラバー杯中学生卓球大会を開催し、福島県南地区18校から236名が参加しました。9月には第16回朝日ラバー杯卓球大会を開催し中学生から一般まで男女合わせて約530名が参加し、両大会とも白熱した試合が繰り広げられました。



### 泉崎中学校に卓球台を寄贈

毎年「朝日ラバー杯中学生卓球大会」会場など、日ごろお世話になっている泉崎中学校に卓球台5台を寄贈しました。



### 「まるごとしらかわ2017」出展

2017年10月、「まるごとしらかわ2017」に参加しました。当日はあいにくの雨でしたが、多くの方が来場され、シリコンゴム細工のオリジナルストラップをつくり、記念品としてお持ち帰りいただきました。再度来場してストラップを作製されるお客様もいらっしゃるほどの大好評でした。

